

## 第 11 回 武蔵野市ごみ収集の在り方等検討委員会要録

- 【日 時】 平成 29 年 12 月 20 日（水） 午後 7 時 00 分～8 時 55 分
- 【場 所】 武蔵野市役所 4 階 413 会議室
- 【出席委員】 阿部迪子 岡内歩美 加藤慎次郎 木村 浩  
齋藤尚志 迫田洋平 白石ケイ子 田口 誠 竹下 登  
西上原節子 能勢方子 花俣延博 濱中洋子  
平岡直樹 前田美和子 茂木 勉 （敬称略）
- 【事務局】 クリーンセンター所長、ごみ総合対策課減量企画係長 他
- 【欠 席】 今木仁恵 山本信之
- 【傍 聴】 なし
- 【配布資料】
- 資料 1 アンケート集計結果 ※
  - 資料 2 都内各自治体のごみ収集頻度一覧
  - 資料 3 市内ごみ収集の地区割りと収集日（案）
  - 資料 4 武蔵野市リサイクル推進事業者顕彰制度（案）

### ※注記

このアンケートは、クリーンむさしのを推進する会会員及び市職員関係者の一部を対象に、資源ごみの行政収集頻度を半減した場合の感想・行動変化及びごみ量について、調査し、取りまとめたものである。対象者数が少なく、また、対象者の多くはごみ問題について意識の高い方となっており、年代の偏りも見られる。そのため、このアンケート集計結果の利用にあたっては、市民全般の状況を表すものと捉えるのではなく、参考として捉えるものである。

## 1 開 会

## 2 議題

(1) 行政収集の見直しの内容について

【事務局】 資料 1・資料 2・資料 3 について説明。

【委員長】 事務局の説明を受けて、ご意見やご質問等はあるか。

【A委員】 B委員に伺いたい。資料 1 のアンケート結果について、びん、缶、ペットボトルを隔週にした場合、缶やペットボトルを潰して家庭で減容化することで収集の合理性があるのか。

【B委員】 ペットボトルについては、家庭で潰してもらおうと助かる。キャップを外して排

出するのが原則だが、キャップがついていることが多い。プレス式の清掃車に押し込む時に空気が抜けず潰れないため 1 台あたりの積載重量が増える。びんの場合、大量にレジ袋に入れると破けてしまうため大量排出する方はいないと思う。缶は潰されてしまうと磁力選別の際にアルミとスチールの資源物の低下になるため、潰さずに出して欲しい。

【C委員】前回、隔週になると高齢者はごみ出しが大変という意見があったが、アンケート集計結果を見るとペットボトルはそんなに排出されないと感じる。元気な高齢者は買い物の際に店頭で持参すると思う。若い方は 3・11 以降、水道水を使うのが心配という意見もあるでしょうが、武蔵野市の水道水は安全でミネラルも多いので是非使っていただきたいと、行政が PR することが重要である。このアンケートだけで、ごみ減量に繋がることは難しいと思うが、行政・お店・市民が共に努力をすることで邁進していくべきである。店頭回収について質問をしたい。前回会議の事務局説明で店頭回収は商店会でも考えていると言われたが、具体的には決まっているのか。また、最近のコンビニは 1 人用のお惣菜が充実しており、高齢者も利用していると思う。コンビニの店頭回収については、店外に回収ボックスを設置すると他のごみが入れられてしまうことから、店内に設置になっているように思う。早稲田通り商店会でペットボトルの回収をしていると聞くが、商店会で取り組む場合は一軒ずつ行うのか、また誰が収集をするのかについて、事務局はどのように考えているのか。

【事務局】店頭回収、自主回収の支援制度については、スーパーに限らず商店会やコンビニエンスストア、他の小売店なども入れて制度にしていきたいが、具体的には決まっていない。その他の質問に対しては次の議題で説明をしていく。

【D委員】現在は行っていないが回収の取り組みとして、境南町のふじみ通り商店会のコミュニティスタジオでは、古紙を持参すると商店会で使用できるポイントが貰えるような仕組みがあった。

【E委員】店頭回収を商店会で行うとしても吉祥寺では行う場所がない。店と店が隣合せであり、家賃が高いこともあり店頭回収が出来る状況がない。吉祥寺の商店会の事務所は、元町通り・ダイヤ街、サンロード・大正通り・平和通りとなっている。武蔵野市の 51 商店会のうち事務所があるのは 10 軒ほどであり、商店会長が 1 人で商売を行っているところもあるため、店頭回収は不可能である。西友をはじめ吉祥寺のスーパーでは、ペットボトルの回収は行っていないところもあり店頭回収をすることが厳しい状況にある。吉祥寺地区の各商店会の中にコンビニエンスストアが入ってきているのが救いではあるが、それ以外の店舗での店頭回収は難しい。武蔵境地区はすきっぷ通り商店会も厳しい状況にある。

【D委員】C委員の話から、現状は定かではないが早稲田通り商店会は、機械で裁断をしてポイントをつけるやり方をしていたと記憶している。

【F委員】資料 1 の隔週化の影響感想で「不便」「どちらかという不便」と回答している

方が 10～20%程いるが、この方々の苦情になると考えられるが、どのような対応をするのか。そのことの覚悟は必要になると思う。

【C委員】 A委員のお住まいの三鷹市では、隔週になっているが、説明会等は開かれたのか。

【A委員】 記憶は定かではないがあまり影響はなかったと思う。資料1について子育て中の方や若い世代では不便ではないかという意見もあった。アンケートについてはもう少し世代別の検討が必要である。小分けのお惣菜は高齢者が買って行く状況はあるのか、またコンビニエンスストアのごみ箱にわざわざ持ち込む方がいるのか、G委員に実状を教えて欲しい。

【G委員】 今月でコンビニは2万店を達成した。60代以上の高齢者の利用が高いため、お惣菜は非常に売れている。コンビニではできあいのものを売っており重宝されている。今月から新店舗になり最新のごみ箱を店内に設置したが、車で乗りつけた方でも分別をしてくれてマナーが良い。お客さんが増えた分、ごみ量も増加している。店内で飲食は出来ないのもちらのごみはないが、買った容器を持ってくるお客様がいる。多いのはペットボトルや缶、お弁当容器で、非常にマナーが良い。旧店舗の時はごみ箱が店外にあり生ごみや靴、雑誌などが捨てられて困ったが、現在はそれがなくなりごみの回収が楽になっている。

【H委員】 市外のイトインがある店舗にはごみ箱はあるが、それ以外の店舗は基本的にはごみ箱がない。店内で購入したお弁当などを駐車場で食べ、人目のないところに設置している傘のビニール袋用の箱に捨てられたことがある。リサイクルボックスは店内の見える場所にあるので分別して持参いただいている。ペットボトル・トレイ・牛乳パックは回収してリサイクルするシステムができていますが、回収の大型車両が駐車できない店舗もある。回収はお金を払ってリサイクル処理をしているので厳しい状況にある。

【事務局】 資料3の地区の平準化、収集曜日や品目の平準化、一部資源物の隔週化について、どのような部分が改善されると事業経営の効率化になるのかをごみの収集事業者の立場からB委員に伺いたい。

【B委員】 人員不足の状況はある。特定の曜日に多数の車両と人員が必要になるが、それを全員雇用はできないため、他業務からの振り分けや限定のアルバイトを雇うなどの対応をしている。収集量の多い水曜日がその労働力が確保できない場合は人員不足の陥ることになる。曜日が平準化になることで、長期的に安定した事業ができるためありがたい。受け入れ側の工場も世帯数が均等割りになっているので、1日あたりに搬入される資源ごみの量が均一になり、無駄な受け入れやストックヤードの容量を縮小できるため事業が効率的かつ安定的になる。隔週化については、地区の均等割りができているので問題はない。

【D委員】 B委員の職場では、東日本大震災以降の人手不足や労務単価の上昇などの影響

を感じることはあるか。

- 【B委員】 運転手や収集員の定年の年齢を引き上げて再雇用の拡大、体力のある健康な高齢者の方には曜日を減らすことで凌いでいる。人員募集に対しても応募が減少して、労働力確保に苦労している。ドライバー職の労務単価も毎年上昇している。
- 【事務局】 いなげやさんに立ち入り検査をした際に質問をしたことがあったが、ペットボトルの店頭回収の際、自社便以外の収集業者に回収する場合は処理費を支払っているということだが、今年12月をもって中国が廃プラスチックの輸入が環境汚染の理由から禁止をするが、その影響はあるか。
- 【H委員】 店頭回収分を配送車でセンターへ持ち込む場合は、従来と同金額で買い取りをしていただいている。小さいお店が見積もりを取って金額を聞いたところ、ペットボトルは資源として売り先が無いため有料でなければ持っていかないとされた。ダンボールは見積もりとしては0円だが2～3円で持っていくとのことだ。
- 【C委員】 前回、若い世代の減量に繋がる副次的サービスがあればライフスタイルを変えることが出来るのではないかというI委員の意見があったが、具体的にはどのようなことか。
- 【I委員】 あらゆるプラスチックが排出される中、新聞紙と雑がみのリサイクルが違うように、その他プラスチックが雑プラスチックと良いプラスチックのように分かれて良質なものになるのであれば価値があるのかを質問したい。若い方々は分別して排出するのは慣れていると思うので、その他プラスチックを分別したり、燃やすごみも水物と乾いているものを細分化してはどうか。生活をする中でまとめて購入する工夫を身に付けたり、子どもたちが家で使用したものを学校で回収する教育プログラムにするなどを、そのような排出の仕方があるのではないかと思った。
- 【C委員】 今の意見について行政の受け止め方を伺いたい。
- 【事務局】 プラスチックを材質ごとに細分化し品質の良いリサイクルの仕方をする一貫でペットボトルのみで回収している。店頭回収でも白色トレイのみで回収している。単品で回収することによりリサイクルの品質が上がり、プラスチックを混合してしまうと低品質になってしまい細分化することは分別時に迷いが生じてしまう。一方で容器包装リサイクル法は材質ではなく、何の用途で使用されていた物かで分別が異なる。材質面と用途面でどう折り合いをつけるかは難しいところがある。行政収集、店頭回収、自主回収、集団回収以外でどのような新しい副次的サービスがあり何が意味があるのか等を長期的な検討していく必要がある。
- 【D委員】 補足説明として、なぜ容器包装以外の物を資源ごみとして回収しないかという点、容器包装リサイクル法では、製造業者等がリサイクルする費用を負担し、その費用に基づきリサイクルする仕組みとなっている。ゆえに自分たちの製造した商品やそれに関するものはリサイクルに回すが、自分たちの製品以外のリサイクルのための費用は負担しないという仕組みである。品質が同じでもリサイクルが出来ないはその

ような背景があるためである。

(2) 武蔵野市リサイクル推進事業者顕彰制度について

【事務局】資料4について説明。

【副委員長】事務局からの説明にあった学校とはどのようなところを想定しているのか。

【事務局】公立学校も検討の余地はあると思うが、私立の高校や大学をイメージしていた。

【副委員長】公立中学校は収入を得ることはできない。リサイクル機器を設置した場合、学校の管理者やPTAの作業負担になる。外部の人が回収のために来校することは難しいと思う。

【D委員】事務局としては、対象を幅広く捉えていると思う。行政収集の見直しは集団回収の制度を含めて総合的に考えるべきものである。行政的に予算増加には厳しい部分はあるが、事業の見直しの中で費用を捻出することという考え方はある。イニシャルコストの助成は集団回収の見直しにより捻出した予算を割り振ることも考えられる。副委員長からご指摘があった学校の収集に関することは、集団回収の枠組みで考えた場合、現状ではPTAや子ども会主催などで行っているものがある。行政収集以外の収集を、集団回収を含めて取り組みを広げていくという趣旨であると思う。

【I委員】5つの顕彰要件に加えるとよいと思うものの意見だが、マイバックを持参すると2円を差し引いてもらえるスーパーがあるので、ビニール袋の値引きをしていることを加えてもよいと思う。そのようなお店に対してイニシャルコストの助成と同等に支援金のように組み入れてはどうか。

【副委員長】店舗だけではなく、子育て世代に向けて私立の幼稚園や保育園などに広げていくことも考えられる。

【D委員】I委員からの意見にあったビニール袋に対する支援策について、色々なアイデアの一つとして、何が現実的にできるのかを見極めていきたい。保育園や幼稚園での取り組みについての意見として、少数ではあるが現実的に牛乳パックの回収を行っている保育園がある。ごみ減量に繋がる取り組みが広がるよう考えていきたい。

【A委員】資源物については減量するのが難しい。可燃ごみであれば食品ロスを考えて食べ残さない、余計に買わずこまめに買い物に行くなどの生活スタイルを変えるなどがあるが、容器についてはマイボトルなど地道な努力をしてもなかなか減量につながらない。イニシャルコストの助成や広報支援で推進店を紹介することがお客さんの商品購入につながるのか。またポスターやステッカーなどでPRをすることが相乗効果になるのかをH委員、J委員、G委員に伺いたい。

【H委員】イニシャルコストの助成については、回収ボックスの入れ替え時や店舗のリニューアルの際には考えられる。顕彰配布物については、エコパートナーのステッカーが貼ってあるがお客さんには浸透していないため、それを見て買い物をするというのではないと思う。リサイクルに関して現時点でいなければ、ペットボトルは有価物

として処理して運んでもらっている。破砕機を設置している店舗は機械の減価償却が下がっている状況である。青梅市では店頭回収したペットボトルを行政が収集しているが、来年3月で回収をやめたいとの連絡があった。世間一般ではペットボトルは値段がつかない状況になってきている。ペットボトルが有料で買い取られなくなった場合、例えば店頭回収は行うが、回収は武蔵野市が無料で行うことも考えられる。コストが増加すると、店舗だけで負担することは難しくなる。

【A委員】ごみの便利帳に店頭回収店一覧を掲載した場合に購買につながる効果はあるのか。

【H委員】家庭で洗い分別して持参する方は、お店の回収ボックスに入れることで買い物をしないとイケないという気持ちになると思う。

【G委員】個人的な意見ではあるが、イニシャルコストの助成については良いことだと思う。破砕機や圧搾機などは設置できるスペースがあれば導入してみたいと思う。市の刊行物に推進店一覧を掲載したとしても大した影響はないと思う。スーパーと違いコンビニは自分のテリトリーがあるため、わざわざ遠いところの店舗に持ち込むことはないと思う。地域に溶け込み事業が浸透していれば、例えば新聞販売店とタイアップして新聞紙の持ち込み日を決め、販売店が一度で回収できるようなシステムがあると良いと思う。ただし、顕彰配布物でポスターやステッカーをいただいても貼りたいとは思わない。

【J委員】イニシャルコストの助成については、新規参入の事業者に対する支援は良いことだと思う。ランニングコストについて計算がしにくいように思う。資料を出す方も見る方も手間のかかることだ。新規参入の方に支援する仕組みをわかりやすく広く周知して市全体の企業や団体の意識を高めていく方が良いと思う。

【K委員】レジ袋はいらないと伝えると「ありがとうございます」と言葉が返ってくるので、レジ袋の2円引きはお店にとって良いことだ。店頭回収を進めていても買い物のついでと言ってもわざわざ店頭への持ち込みはなかなか難しい。個人的に買い物をするお店が決まっているのでその際に資源物を持ち込むことはあるが、コンビニは買い忘れ等で立ち寄りというものなので持ち込むことはないと思う。店頭回収のPRは難しいと思う。ごみ便利帳を見ている方はあまりいないと感じるため効果はないと思う。金銭支援は店舗にとって良いことだと思う。

【C委員】資料1について多少不便という意見だが、毎週の行政収集ならば店頭には持ち込まないし変化がないと思う。2週間に1回の収集にすれば、家に溜まりすぎたら店頭を持ち込もうと考えると思う。どれだけの効果があるかはこれからの問題である。

【E委員】資料1は一般的な市民の意見が反映したものではないので、この資料に依拠すべきではない。20代から40代が少なく、50代から70代の意見で資料が作られている。市民の意見としては不十分である。このアンケートを基にこの話し合いが進むと間違ったものになってしまうので、再度考えた方がよいと思う。アンケートが偏った取り

方をすると間違った判断に繋がる。ごみのことを理解している方がアンケートに回答すると「問題なし」「影響なし」ということになる。実際に一般市民がごみに関してどのように感じているのかが大事であるため、再度データを考え直した方がよい。

【委員長】再度、データを取り直すことはあるのか。

【事務局】もし意味のあるデータを取るとなると無作為抽出になる。今回のアンケートは傾向を見るためのものでこのデータのみを依拠して議論をするのはあやういと思う。特に感想や行動変化については意識の高い方のものになっている。ただし量の変化については、意識の高い方でも減量にはならないことが示されていることが興味深い。減容化にはつながるが減量にはならないことが見える。再度やり直す否かは未定である。

【E委員】このデータで疑問に思うのはダンボールの排出である。一般家庭でダンボールが出てしまうのは通販やスマートフォンで商品を購入した場合が多いと考えると20代から40代の若い世代のデータがない。ペットボトルについて、若い人はペットボトルでお茶を飲むが中高年は少ないと思うので、その違いがデータに表れていない。

【D委員】E委員からのご指摘内容はその通りである。ごみの収集頻度の見直しについてのどのような考え方があるのかを参考として確認するためのものであり、現段階で大々的に行うとあたかも決定事項として捉えられてしまってもいけないので、クリーンむさしのを推進する会や市職員、関係者に声をかけて行ったアンケートである。市民全体の意見として取り扱うものではなく目安として取りまとめた内容である。

【委員長】取扱いについては注意をしていただきたい。

(3) その他について

【事務局】次回の会議は1月または2月になる予定。

【D委員】市全体の考えをまとめたうえで次回の会議としたい。今回の議論内容は、前回に引き続き事務局として見直しの方向性を想定し考え方をまとめたものである。今回、様々なご意見をいただいたので、そのことも踏まえて事務局として再度、委員の皆様のご意見を伺いたいと思う。

### 3 閉 会

以上